

報告書

下記の通り東京農業大学総合研究所研究会/農業・関連企業のイノベーション部会発足記念シンポジウムに参加しましたので、ご報告申し上げます。

記

1.名称 農業・関連企業のイノベーション部会発足記念シンポジウム

2.日時 令和5年1月20日 13時30分～17時

3.場所 東京農業大学アカデミアセンター 地下1階 横井講堂

4.講師

東京農業大学 学長 江口文陽氏
前田農産食品株式会社 代表取締役社長 前田茂雄氏
グローバル情報研究部会 武原タイ氏
農業総合研究所 代表取締役会長/CEO 及川智正氏

5.内容

1) 「農業×教育イノベーション」

東京農業大学 学長 江口文陽氏

農業とは非常に幅広い学問であり、山や海、里山などの人が暮らすうえで必要不可欠な領域が農学である。江口学長は温故知新の視点から今あるものを活用することで、農業に何かの視点から新しいものを創造することを意味するイノベーションに取り組まれてきた。それは2011年に発生した東日本大震災が契機となった。津波の影響で、東北の水田では塩害が発生し、そこで江口学長の専門である微細藻類を用いた塩害対策が行われた。微細藻類は増殖と共に水分と塩分を吸収する性質を持ち、この特徴を生かして、微細藻類を川から海へと流すことで、以前の土壌環境を取り戻すことに成功した。一般的に塩害に対しては石灰を使用するが、微細藻類の利用はそれよりも高い効果を発揮する。そして新たに、微細藻類を用いて土壌流出を防ぐ研究にも着手されている。このように江口学長は学問や研究といった教育の視点から農業にイノベーションをもたらしている。

2) 「農業×加工イノベーション」

前田農産食品株式会社代表取締役社長 前田茂雄氏

前田氏の講演会を聞き終わった直後に感じたことは、圧倒的な技術力だ。圧倒的な技術力がないと、世界初である電子レンジ専用ポップコーンを作ることができないだろう。しかし、技術力だけでは「世界初の商品」を作ることができないと思う。なぜなら、その商品を作ろうという発想がないと作れないからだ。また、「弾けるポップコーンを作る際、小麦とコーンを一緒に乾燥させる方法は豆腐屋さんから学んだ」という言葉も印象的だった。ユニークな発想力と広い視野を持っていると感じた。それ以外にも、トーストアートでギネス記録を保持していたり日本一長いピザを作ってみたり、ひまわり迷路のイベントも仕掛けている。いずれも、農業を中心とした町づくりだ。生産者と消費者が繋がったり、雇用を創出したり、多くの農業者が参考になっている点が共通していると思う。「農業を良くしたい、農業を知ってもらいたい」という強い気持ちが前田さんを動かしているのだろうと感じた。



3) 「グローバル思考×イノベーション」

グローバル情報研究部会 武原タイ氏

学生時代は海外を飛び回り、卒業後も貿易会社へ勤め現在はアメリカ在住というグローバルな経歴を持つ武原氏。かつては牛肉の主要取引先であったアメリカは、現在、経済成長を遂げた中国や韓国なども取引を行っている。これに対して、日本は円安、少子高齢化の影響で牛肉の購買力が下がり、アメリカの牛肉輸出先としての地位は低下しているのが現状だという。普段、日本を外から見ている武原氏は、今こそ真のグローバル化に踏み切るべきだと語る。グローバル化を実践し世界の人々と渡り合うためにもグローバルな思考は大切であり、それと同時に、課題に直面した時にはイノベーションが重要であることが分かった。新しいアイデアだけではイノベーションにはならない。アイデアを実行しビジネスにつなげてこそイノベーションである。講演の最後に「グローバルな思考で行動し、イノベーションする人材に農大生がなることを期待します」というメッセージもいただいた。



4) 「農業×起業イノベーション」

農業総合研究所 代表取締役会長/CEO 及川智正氏

大学卒業後、ガス会社に勤めるも結婚を機に和歌山で就農する。3年間キュウリ栽培を行うも農業の生産現場の現状を知り、農産物の卸売りを始める。そこで生産と販売は水と油の関係であると考えた及川氏は、更に農業をよくしたいという思いから、農産物を食べてもらうまでをコーディネートする新たな流通の形である農業総合研究所を起業する。当初は農家の営業コンサルタント事業を行っていたが、徐々に道の駅のような直売所事業へシフトした。2016年には上場を果たすなど大きな成長を遂げた。現在は、2035年までに1兆円の野菜や果物を取り扱うことを目標に事業活動を展開されている。最後に及川氏が起業家として大切にしていることを紹介する。「1.進んでリスクをとること 2.自分を信じること 3.志を語ること。」この3点を大切にしながら、まず行動することこそがイノベーションのスタートであると肝に銘じたい。



5) 「パネルディスカッション」

パネルディスカッションでは参加者から講師へ多くの質問が寄せられた。その中でも抜粋して紹介する。

参加者：多くの方々と交流のある講師の皆様と思いますが、その中で人との繋がりではどのようなことを意識しておられますか？

及川：新しく出会う人に利用されようと思い、ネットワークを広げることを大切にしています。

呼ばれたらすぐ行くこと、先輩関係を尊重することを重視しています。

前田：その人が同じ想いに対して情熱があるのかということ大切にしています。現在はSNSが良いツールとなっているので、人間関係を広げる上でも活用しています。今では同じ想いを持つ仲間に出会えたことが財産かなと感じています。

武原：自分の利益を優先せず、周りの人たちを優先するところから人間関係を構築するようにしています。また、異なる部門の人たちとのネットワークを作ることも大切にしています。

6. 所感

今回は4名の講師から素晴らしい講演を聞くことが出来た。4名とも各々の視点で農業にイノベーションをもたらしている。江口学長は自らが行う専門的な研究を利用して被災地の復興に携わった。前田氏は冬の農閑期を利用した新たな加工ビジネスに挑戦し、自社の主力商品にまで成長させた。武原氏はグローバルな思考で、世界を相手に活躍されてい



令和5年1月25日
マネジメント研究会

る。及川氏は農業をよくしたいという思いから起業し、新たな農産物流通の形を作り上げた。

先輩方に共通しているのは、社会に対する問題意識と行動にあると思う。問題を見つけることは比較的容易かもしれないが、それを解決するために行動に移していることが素晴らしいと感じた。諸先輩方の活躍を目の当たりにし、我々学生も新たなイノベーションを興せるように活動を続けていきたい。

以上